

日本人の若者（特に男子）が、内向き志向に陥っている。海外への留学どころか、海外旅行にすら興味を失っている。語学ができないことも一つの要因らしい。アメリカの大学では、日本人の影は薄く、アジア人といえど、中国人、韓国人、インド人だ。

「草食系男子」という言葉が発案されたのは5年前のこと、もともとは、

草食系男子

東京大教授 伊藤 隆敏



男子を総称するようになっ
た。

恋愛について積極的でない男性を意味していた。最近では何事にも消極的でリスクをとらない、さらに自分の意見をはっきり言わない（言えない）

自信がないから留学しない。だからもっと語学ができなくなる。失敗が怖いから、異性にも声をかけないし、成果が確実ではないことには努力しようとしれない。転職のない

職種が人気で、商社に就職した男子の中に、海外勤務を拒否する者が現れた、と聞いた時には驚いた。

これに引き換え、女子は元気だ。大学でも交換留学志望の過半数は女子。リスクのある職場、職種、海外駐在にも喜んで飛び込んでいく。

草食系男子の増加に比例するかのうちに、何事にも積極的に取り組む（肉食系？）女子が増えている。きつと双方向に因果関係があるのだろう。これまで男尊女卑と

か言われていた日本社会を前提とすると、積極的な女子の増加と、その後の会社や官庁での活躍は大歓迎である。

しかし、男子の草食化を埋め合わせるほどの数にはまだなっていない。これからの成長分野は新興国を中心とする海外だ。グローバル化によって会社や大学院がますます国際人を必要とする中、草食化は、ちょっと困ったものだ。このままでは、21世紀のグローバルゼーションの果実は、日本（人）には来ない。